

令和8年度九州森林管理局事業評価技術検討会 議事概要
(期中・完了後の評価)

1. 日 時： 令和8年7月31日(金) 13:30～:14:20
2. 場 所： 九州森林管理局 4階 第2会議室(一部 Web)
3. 出席者： 技術検討会委員 藤掛委員長、加治佐委員、壁谷委員
九州森林管理局 計画保全部長、計画課長、治山課長、治山課民有林治山係長
森林整備課長、資源活用課長、専門官(災害調整担当)
監査係長、主査(監査)
4. 議 題： 期中・完了後の評価(森林環境保全整備事業)
・朝倉地区
・一ツ瀬川森林計画区

5. 議事概要

事務局及び説明員から期中の事業評価(案)及び完了後の事業評価(案)について説明、その後に質疑応答。

【期中の事業評価】

(委 員)

当初の計画から事業の規模が変わっているが、復旧状況についての評価はどのようにされたのか、具体例があれば教えていただきたい。

(九州局)

基本的には航空写真などを用いて、緑化の進み具合等で復旧状況进行评估している。また、全体計画調査の受注業者や職員による現地確認等を行い、個別に評価している。砂防施設が下流域に設置されたことによる補足効果も評価している。

(委員)

今回の知見を活かして、今後の計画に反映させていただきたい。

(委員)

10年間の直轄治山事業を実施するにあたり、職員体制は変わったのか。

(九州局)

鳥栖に治山事業所を設置し、担当者4名程度を配置した。事業所は局治山課に所属する機関となっており、連携しながら事業を実施した。

(委員)

総事業費の中に、この職員の人件費は含まれているのか。

(九州局)

含まれていない。

【完了後の事業評価】

(委員)

便益を集計する際に事業対象区域面積を使って計算されているが、例えば同一面積で複数年下刈を行った場合は、重複してカウントされるのか。

(九州局)

重複のカウントとはなっていない。

(委員)

流域貯水率の根拠文献が「森林の間伐と水収支」となっているが、更新や下刈が多くなっている状況で間伐を前提とした数値が妥当なのか。

(九州局)

係数に係る文献については、本庁から因子として示されたものを使用しているので、ご意見は本庁へ報告させていただく。

(委員)

炭素固定便益の算定根拠で「別途」とある箇所については明確化したほうがいいのではないか。

(九州局)

今後の検討とさせていただく。また、ご意見は本庁へ報告させていただく。

(委員)

総費用が、平成 28 年度の評価時点と比較して 2 倍以上になっている要因を教えてください。

(九州局)

事前評価時点と比較すると労務単価は約 1.4 倍、保育間伐の事業費については約 3 倍、加えて燃料や資材の高騰も要因となっている。

(委員)

スギ花粉発生源対策は、国民への健康に影響を与えるため、更新する効果の評価を見える化してはどうか。

(九州局)

今後の検討とさせていただきたい。ご意見は本庁へ報告させていただく。

(委員)

宮崎県の林業就労者数の 35 歳未満の占める割合は、平成 17 年度以降上昇傾向とのことであるが、意見のコメントが多い市町村は、林業が盛んで若手の林業就労者が多いなど、コメントとの関係性があるのではないか。

(九州局)

国勢調査の結果では、児湯地域の林業就労者数が増加していることは確認できるが、市町村ごとの若手の林業就労者の状況については確認できず、コメントとの関係性は把握できていない。

(委員長)

これまでの説明を踏まえ、技術検討会による意見の取りまとめを行いたい。期中及び完了後の事業評価については、素案のとおりとして取りまとめてよろしいか。

(委員)

異議なし。